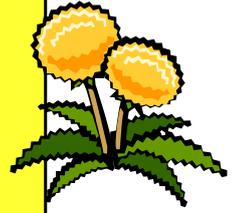


たんぽぽ



五月晴れの毎日ですが、自粛が長く続いている昨今です。北里学級は、新型コロナウイルスの影響で3月から学級閉鎖中です。入院している児童・生徒に次のように対応しています。

- ①児童・生徒の保護者に学習課題に参加の有・無の案内を配布する。
- ②学習参加を希望する人に学習課題を渡す。
- ③先生が学習課題を添削した後、児童・生徒に返す。

学習課題の受け渡しは、看護師と連携しながら進めています。児童・生徒の学習の遅れを少なくするよう職員一同、頑張ります。また、1日も早く学級閉鎖が解かれることを願っています。

さて、北里学級の教室には、大村智博士の写真を掲示しています。そこで国語の学習として大村智博士について下記の内容で紹介し、児童・生徒(昨年)に感想文を書いて頂いたので紹介します。

大村智博士

大村智博士は、**2015年のノーベル医学生理学賞を受賞しました**。どんな功績が評価されたのでしょうか。大村智博士は、静岡県のゴルフ場周辺の土にいた新種の放線菌が出す物質から、寄生虫に効果がある抗生物質「エバーメクチン」を発見したのです。「エバーメクチン」から駆除薬イベルメクチンを米製薬大手と開発しました。蚊やブヨが媒介する熱帯地方特有の「オンコセルカ症」(河川盲目症)という病気がありますがこの病気の特効薬として広く普及したことが評価されたのです。このおかげで4億人が救われ、オンコセルカ症は、2025年頃には撲滅される見通しです。イベルメクチンの商品名は、アフリカの子どもたちによく知られています。

ノーベル賞の受賞会見では、「私の仕事は、微生物の力を借りているだけ」と繰り返しました。とても謙虚なひとなのですね。

大学生時代はスポーツに没頭し、距離スキーで国体に出場したこともあります。大学卒業後は、定時制高校の教師をしていましたが、ある時、生徒の指が油にまみれているのを見て一念発起。郷里の山梨大などで微生物の面白さに触れ、その後、29歳で北里研究所に入りました。大村智博士研究室の成果をまとめた冊子は「イエロブック」と呼ばれ、世界中の研究者の参考書になっています。



大村智 博士

児童・生徒の感想文

- Aさん(4年) 大村博士は、偉いことをしたと思いました。
- Bさん(5年) 大村博士は、エバーメクチンを発見してフィラリアをやっつけたのはすごい。アフリカで目の病気になっている人は喜んだと思う。
- Cさん(6年) 大村博士は、勉強が好きで研究熱心な人だと思う。アメリカに行って勉強し、研究したからです。きっと、大きな夢があったからなのでしょう。エバーメクチンを発見して、たくさんの人々を病気から救ったのがすごいです。私も、夢を持って勉強したいです。
- Dさん(4年) 大村博士は、写真からとてもやさしそうで神様みたい。もし今、大村博士が私の病気を治してくれたら連続して、ノーベル賞だ、絶対ノーベル賞。
- Eさん(中2年) 大村博士は、アメリカに留学して細菌学を学んでいる。ここで「オンコセルカ症」について研究をする。この研究を通して病気で苦しんでいるアフリカ人、南アメリカ人約4億人の人々を助けてあげたいという大村博士の強い気持ちがあったのだろう。失敗をくり返しながらもそれを乗り越えて成功したのは、すごいことだと思う。「すごい人」が関係している北里大学病院で治療できるのはラッキーな私である。